



## 近世史料が語る

# 出水を訪れた歴史上の大人物10選！①

薩摩国は中央から見れば遠い所ですが、大昔から出水周辺は人の往来が盛んでした。では、どのような歴史上の人物が出水を訪れたのでしょうか、近世史料をもとに主な人物を古い順に紹介しましょう！

出水に来た年(西暦) (注)今回は、薩摩国以外の人物で、戦国期から幕末までの人物を対象としました。

1575~1576	<b>近衛前久</b> (前関白)	『出水名勝志』、『島津国史』など
1587	<b>豊臣秀吉</b>	『九州御動座記』(大村由己)など
1587	<b>石田三成</b>	『宗湛日記』(神谷宗湛)など
1587	<b>神谷宗湛</b> (博多の豪商)	『宗湛日記』(本人)
1685	<b>助さん(佐々介三郎)</b>	『筑紫巡遊日録』(丸山可澄)
1792	<b>高山彦九郎</b>	『筑紫日記』(本人)
1810,1812	<b>伊能忠敬</b>	『測量日記』(本人)
1818	<b>頼山陽</b>	本人書簡、書軸など
1858	<b>僧月照</b>	『靈志録』、『西海波間記』(平野國臣)
1865	<b>坂本龍馬</b>	『坂本龍馬手帳摘要』(土方直之書写)

### 1. **近衛前久** このえのさきひさ <1575(天正3)年12月25日~1576(天正4)年3月17日、同年7月2日~8月22日>

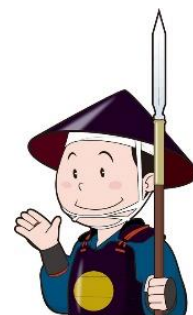
近衛前久は織田信長の命により、豊薩合戦(大友宗麟と島津義久との戦争)を停止させるために入薩しました。鹿児島への往路、帰路の途上、いずれも長期間出水に滞在しました。同地の領主・島津義虎の計らいで平良川沿いにあった専修寺に投宿しました。その対応に満足した前久は、そのお礼として同寺を勅願所(天皇の命令によって国家安寧を祈願する特別な寺社)にするとの一書を与えたほか、翌年には直筆ともいわれる優雅な三十六歌仙絵扁額(県指定文化財)が愛宕神社に奉納されました。

### 2. **豊臣秀吉** とよとみひでよし 3. **石田三成** いしだみつなり 4. **神谷宗湛** かみやそうたん <1585(天正15)年4月27日~同29日(2泊3日)>

豊薩合戦が再燃し、今にも九州全土が島津氏の手落ちるかという頃に豊臣秀吉が20万人余の軍勢を整えて九州に上陸しました。秀吉は三成らを従え熊本沿岸を急速南下、同年4月27日和泉城(現在の城山)に入城しました。同地では神谷宗湛と茶会を催した(『宗湛日記』)ほか、豊後の猛将・志賀親次に親書を送り、直ちに日向方面の戦列に加わるよう指示しています(『熊本縣史中世編第二』)。

なお、秀吉の家臣が記した『九州御動座記』には、和泉城は「隠れなき名城」とあります。(次号に続く)

# 企画展のご案内



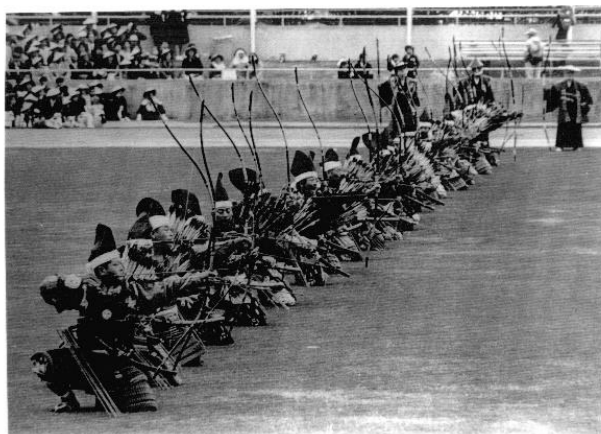
名称：「秘伝-腰矢指矢 究極の薩摩日置流弓術」

期間：令和5年8月17日（木）～令和5年11月14日（火）9：00～17：00

ただし毎月、第3水曜日は休館日

場所：出水麓歴史館 多目的室

観覧料：無料（常設展示室およびVR体験は有料です）



令和5年10月、いよいよ『燃ゆる感動かごしま国体』が開催されます。出水市内でも弓道、軟式野球、高等学校野球（軟式）が行われる予定ですが、出水麓ともゆかりの深い弓道競技は10月13～16日の4日間、出水市運動公園特設会場で行われます。これに伴い本館では日置流腰矢指矢に関する特別企画展を8月17日から11月14日まで開催することになりました。

出水市の指定無形文化財となっている「日置流腰矢指矢」は、古武道としての弓道各流派の中で実戦における射法を伝えている唯一のものです。「日置流」とは、流祖・日置弾正正次が確立したとされる弓術であり、薩摩藩においては日置流の正統な流れをくむ本郷伊豫守から東郷長左衛門重尚が奥義を伝授されました。それ以来、東郷家は薩摩藩の弓術師範として藩士の指導を行いました。

その後、18代藩主島津斉彬公は東郷長左衛門実敬に命じ、「鐘脇の射法」をもとに組弓、進退、押詰の型を創設させ「腰矢」と名付けました。さらに実敬とその嫡子重持は江戸にて「数矢＝指矢」を習得して「日置流腰矢指矢」の射法を確立させました。この射法は明治時代に入り、東郷重持から出水麓の溝口武夫へ伝授され、その後は伊藤信夫、その門弟へと引き継がれ、現在に至っています。

その活動は、昭和39年（1964）の東京オリンピック、昭和45年（1970）大阪万国博覧会や各種弓道の国際大会などで演武され、薩摩の古武道として世界へ発信されています。

今回の企画展では、腰矢指矢の歴史や関連資料を動画やパネル等でわかりやすく紹介します。

なお、腰矢保存会の皆さんによる国体会場での迫真の演武も予定されています。合わせてご観覧下さい。（敬称略）



## フォトギャラリー（本館の活動紹介）



着物姿でご来館のおごじよのみなさん。鹿児島に古くから伝わる「なんこ遊び」で大盛り上がりでした！



インドネシアから結婚式のために来日されたみなさん。陣羽織や兜を身につけて強そうな侍に変身！



当館が誇る最新鋭 VR での出水麓時空ツアー。体験される方はもちろん、見守る同伴の方も釘付け！

## 歴史発見

### スクープ▶野間之関外で行われた有村雄助の首実検に関する新資料見つかる！

令和5年2月、読売新聞はじめ新聞各紙が詳しく報じたビッグニュース。それは、桜田門外の変で井伊大老の首級<sup>しゅきゅう</sup>をあげた元薩摩藩士・有村次左衛門<sup>じざえもん</sup>の関係者らを捕縛するために九州に乗り込んできた幕吏と、事件を穏便に済まそうとする薩摩藩担当者とのやり取りを記した文書が発見された、というものでした。

実は、この事件の首謀者の一人、有村雄助<sup>ゆうすけ</sup>（次左衛門の実兄）の首実検<sup>くびじっけん</sup>（幕吏による遺体確認）が野間之関所のすぐ北側で行われましたが、その真相はよくわかっていません。

資料の解説にあたった東洋大学の岩下哲典教授らは、この文書は熊本藩領内の佐敷で作成されたもので、熊本藩の役人が藩庁向けに書いた諜報<sup>ちやうほう</sup>メモと推測しています。以下、そのポイントを簡単に紹介しましょう。典拠：『白山史学 第59号』

- ・幕吏は3月3日の事件後の同月28日と29日に、佐敷の薩摩本陣<sup>ほんじん</sup>（宿所）で薩摩藩の担当者に対し逃亡者らに関する取調べを行った。総勢17名で、2班に分かれて調査を行った。
- ・取調べでは宿場の帳簿を提出させ、愛村次右衛門（有村次左衛門の間違いか）らの佐敷通過の痕跡を探ったほか、海上移動したとすれば上陸地点はどこかと尋ねている。これに対し、薩摩藩の担当者は米ノ津と答え、水俣の可能性もあると答えている。
- ・28日の深夜、薩摩藩の担当者は野間之原御番所<sup>ごばんしよ</sup>に急飛脚<sup>きゅうびきゃく</sup>を差し向けた。（交渉進展か）
- ・これに関して、薩摩藩は高価な賄賂<sup>わいろ</sup>を贈った。

同教授らは、これにより薩摩藩は事件を穏便に済ますことに成功したとしています。





▶出水麓時空ツアーズイベント  
「第2回 VRでGO! クイズに答えて目指せ、出水の地頭!! 2023」  
《結果報告》



出水麓歴史館では2021年3月にVR「出水麓時空ツアーズ」を搭載したライドマシンを導入しました。この度2周年を迎えたため、VRを楽しみながら歴史クイズに答えるイベント「第2回VRでGO! クイズに答えて目指せ、出水の地頭!!2023」を開催しました。



参加者にはVRを体験したのち、VRに出てきた出水麓に関する20問のクイズに回答していただきました。回答者全員に賞状と記念品が、また正答数の多かった人には「出水地頭」の称号が授与されました。多くの方々に、楽しみながら出水麓の歴史に親しんでいただきました。(写真はイベントの様子)

あとがきに代えて -----

## せご どん と 東ご どん

NHKの大河番組で有名になった「せごどん」という呼び方。最近では西郷さんへの親しみを込めて「せごどん」と呼ぶ人が全国的に増えているようです。

鹿児島県人としてはとてもうれしいことですが、似た言い方で「つごどん」と呼ばれる人たちもいました。漢字で書けば「東郷どん」となります。県内でもご存知の方は少ないようですが、西郷さん同様、鹿児島のイメージづくりに貢献してくれた人たちです。

実は、江戸時代の東郷家には、剣術の示現流と弓術の薩摩日置流の2系統の武芸家の家系があり、それぞれ「剣東郷」と「弓東郷」と呼び分けられていました(『武道学研究6-1』稲垣源四郎)。両流の創始者は、剣が東郷藤兵衛重位、弓が東郷長左衛門重尚で、どちらも歴代の藩主より手厚く庇護され、藩主以下家中の武芸の師範をつとめました。出水の郷士たちも両東郷家に師事し、多くの郷士が示現流、日置流の免状をもらっています。

特に出水郷士と縁が深いのは、弓の東郷家でした。今秋の企画展でも紹介しますが、出水土族の溝口武夫翁(当時青年)は明治時代半ば、「東郷家の小路」(鹿児島市・平田公園付近)にあった東郷重持の屋敷で薩摩日置流弓術、とりわけ腰矢組弓・指矢の奥義を伝授されました。

ちなみにどちらの東郷家も、元帥海軍大将の東郷平八郎とは近い親戚ではないようです。